海事研究協議会
課題研究グループ「港湾の将来に着目した課題」　　リーダー：森　隆行

2018 年度の取り組み

課題テーマ：「技術革新と情報活用に基づく港湾の将来展望」

趣旨：

AI や IoT など急速に進む技術革新が港湾・ターミナルにも導入されている。近い将来、多くの仕事がロボットに置き換わるといわれている。アマゾンやニトリの物流センターではすでにロボットが主役になっている。サプライチェーンの一部である港湾・ターミナルにおいてもそういう日は間近に迫っている。海外ではすでに完全自動化のターミナルも視野に入っている。先進情報技術をどのように利用するのか、日本の置かれている港湾・ターミナルの状況は海外と必ずしも同じではない。海外では AI など先進技術を取り入れた自動化においては日本に先行している。こうした状況の中で、日本においても自動化を進めるべきか、あるいは日本独自の道を歩むのか。独自の道を歩むとすればどのような道があるのか。世界の動きに取り残されないために、日本の港湾・ターミナルのあるべき姿を探る。

協議方法：

港湾・ターミナル問題は複雑な問題が多く存在する。こうした問題をすべて取り上げることは困難であるため、対象やテーマを絞ったうえで取り組む。具体的には、対象をコンテナターミナルに絞る。本課題研究グループでは、タイトルに掲げるように、技術革新(新たな技術の利用)とそうした新技術を使って得られた情報の活用という面から、日本のコンテナターミナルの将来の在り方を探る。

註）未来予測をするものではなく、そして新技術の導入ありき（自動化ありき）の議論ではなく、また、今の技術で実現できるかどうかも問わない（技術は日々進化するものである)。「将来の日本のターミナルのあるべき姿」を模索するものである。

１）日本および海外のコンテナターミナルにおける AI や IoT など新技術の導入の実態を調査・把握。
２）新技術導入の意味についての検討（コスト、安全面、人的側面など)。
３）日本のターミナルにおける新技術導入の可否・可能性の検討（経済的側面、技術的側面、人的側面など)。
４）日本のコンテナターミナルの将来像に関する検討。

活動予定；

・2018 年 3 月キックオフ　2019 年 3 月報告書提出
・年間 3-4 回開催

課題研究グループメンバー；

・海運、港運従事者
・港湾関連業務従事者
・研究者
・その他参加を希望する会員